

第11期 株主通信

〔 2008年4月 1日から
2009年3月31日まで 〕



フューチャーベンチャーキャピタル株式会社





ご挨拶



株主の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のご配慮を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

平成21年3月期は、リーマンショックに代表される金融危機の影響が实体经济に色濃く表れる中、新規上場市場は新規上場企業数が前年度比65%減、上場後の初値が公募割れする企業が半数に及ぶなど、厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社第11期決算におきましては、景況悪化を受けて投資先企業に事業計画の遅れが目立ち、投資損失引当金を大きく積み増したことから、前2期から3期連続の最終赤字となり、株主の皆様には多大なご迷惑をおかけしておりますこと、大変申し訳なく深甚よりお詫び申し上げます。

今期において当社は、3つの方針をもって黒字化に向けてまい進してまいります。第1は営業投資有価証券の流動化推進でございます。上場に依らない売却手段を確保すべく、事業会社、金融機関との連携を一層強めてまいります。第2は投資先企業の選別でございます。当社社員の出向を含め、経営資源を一部投資先企業に集中投入し、企業価値向上の成果を顕在化させることを企図しております。第3は他社との提携でございます。理念を共有する第三者との提携により、協同して投資先企業の育成に当たること、相手先からの資本受入れにより、自己資本の毀損を回復させることを目指します。また、連携により投資運用業務以外の収益を確保し、収益構造の多角化を図り、市況の影響を抑えたビジネスモデルを構築してまいります。

早期の黒字実現を目指し、誠心誠意努力する所存でございます。株主の皆様には、今後なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

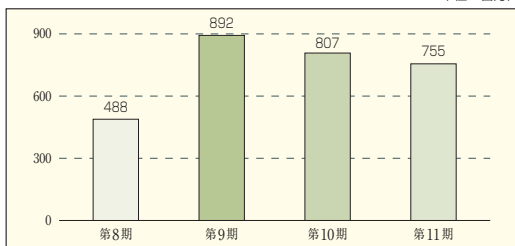
2009年6月

代表取締役社長 川分 陽二



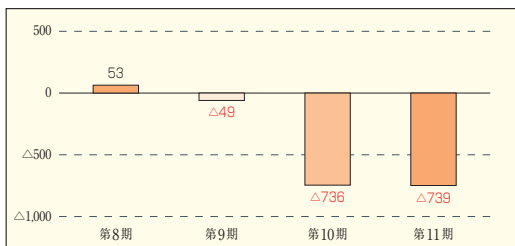
① 売上高

単位：百万円



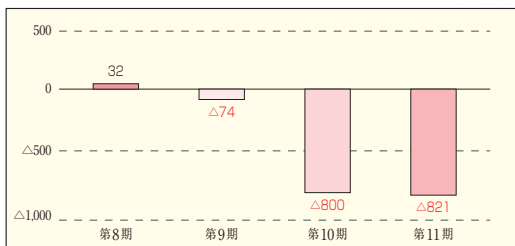
② 営業利益

単位：百万円



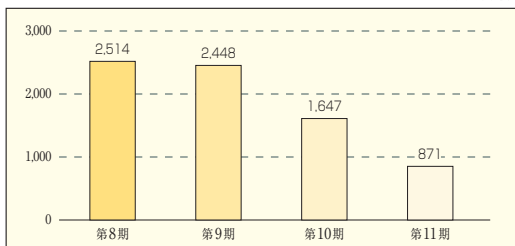
③ 当期利益

単位：百万円



④ 純資産

単位：百万円





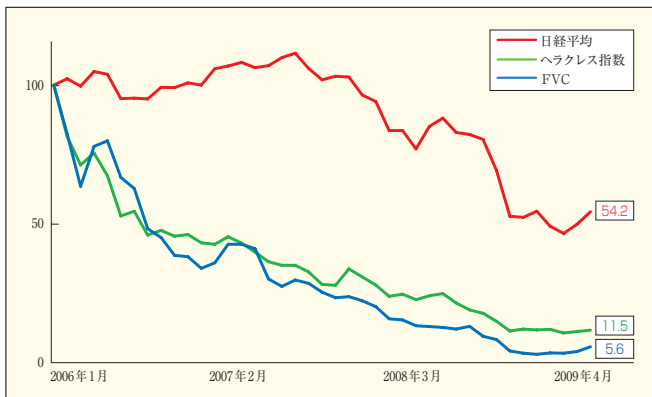
近年の業績振り返り

当社は第9期以降、3期連続最終赤字となり、特に最近2期においては、△800百万円、△821百万円と、多大な赤字を計上いたしました。この最大の要因が投資損益の悪化でございます。

当社の個別決算における営業損益を、当社単体で発生しているものと、投資事業組合で発生しているものとに分解いたしますと、最近2年間の営業損失の大半が投資事業組合で発生していること、すなわち投資損益の悪化が赤字の最大の原因であることがわかります(⑤)。この投資損益悪化の要因としては、主に営業投資有価証券売上高の伸び悩みと、投資損失引当金の積み増しがございます(⑥)。

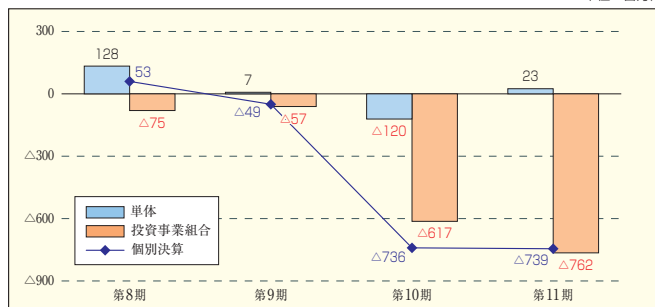
営業投資有価証券売上高の伸び悩みには、金融危機の影響を受けて株式市場が冷え込んだこと(⑦)が大きく影響しております。昨今の市場環境におきましては、上場しても適正な株価形成が望めず、十分な資金調達ができないおそれがあることから、上場計画を先延ばしする企業が現れました(⑧)。当社におきましては、最近3期において投資先企業の上場がなく、営業投資有価証券の売却は未上場での実績のみに止まったため、総じて営業投資有価証券売上高が伸び悩む結果となりました(⑥)。

⑦ 株価推移 (2006年1月を100とした指数)



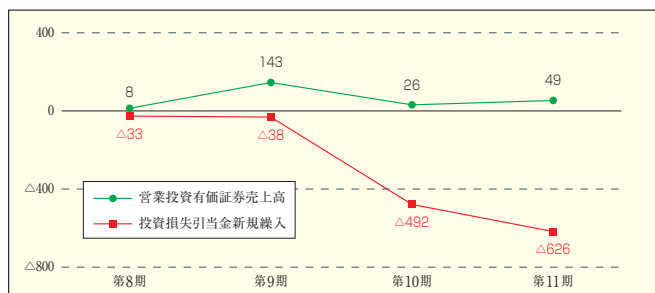
⑤ 営業損益内訳

単位：百万円



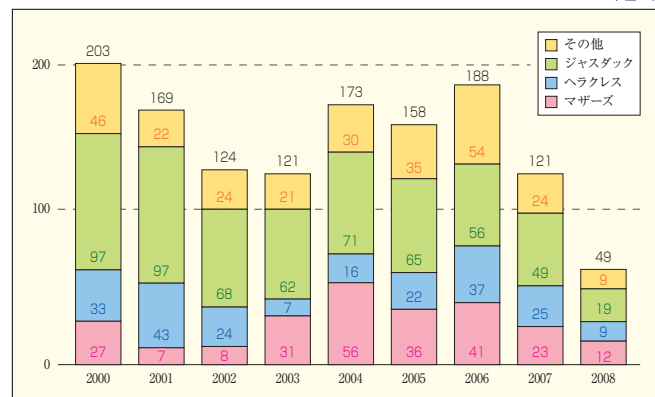
⑥ 営業投資有価証券売上高・投資損失引当金繰入額

単位：百万円



⑧ IPO 社数推移

単位：社



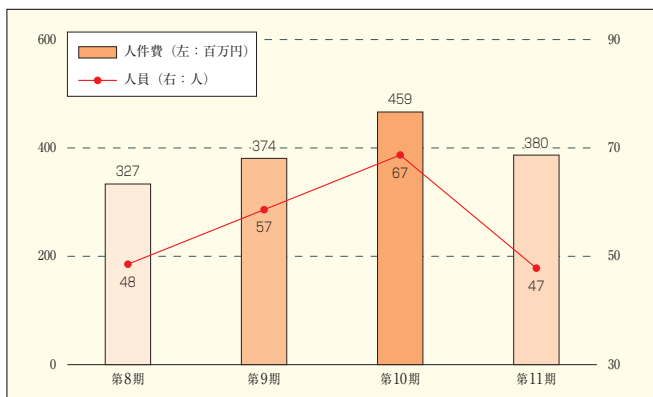
また、投資損失引当金の積み増しにつきましては、2005年に設立した出資金総額100億円の大型ファンドが「Jカーブ※¹」の底を迎えていることに、金融危機の影響が实体经济に及ぶ中、投資先企業におきまして事業計画に遅れが生じるケースが増加したことが重なったため、投資損失引当金を新規で大幅に繰り入れることといたしました(⑥)。

一方、当社単体の損益状況につきましては、規模の拡大による収益成長を目指し、積極的な事業拡大を図ったことにより、第9期から第10期にかけて一時的に悪化いたしました。

まず、人材育成には一定の期間が必要であることから、将来の運用体制を見据え人材獲得を推進しました(⑨)。また、第9期中には投資資金の原資となる大型ファンドを設立いたしました。しかし、市況の冷え込みを受けて機関投資家の投資意欲が減退したこと等により、ファンドの調達額は当初の募集予定額に及ばず、また、当社自身の出資金相当額を借入により調達したため、一時的に財務的な不安定を招くにいたりしました。

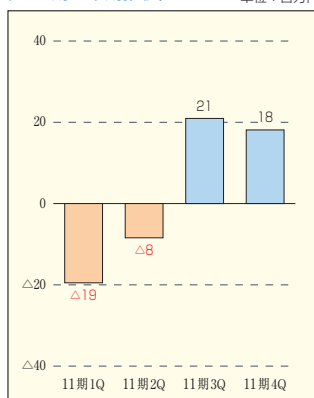
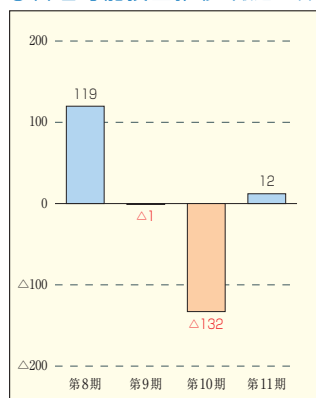
こうした状況を受け、当社におきましては、第10期中より経費削減の取組みを強化し、拠点の統廃合等を推し進め、第11期中に管理可能損益※²を黒字化いたしております(⑩)。

⑨人員・人件費推移



⑩ 管理可能損益推移（最近4年間・第11期四半期推移）

単位：百万円



以上、近年の業績を振り返りますと、今後当社といたしましては、管理可能損益の黒字を維持した上で、投資先企業の企業価値向上の成果を上げ、投資収益を顕在化させることが必要不可欠でございます。また、その着実な遂行により、損失の累積による純資産の毀損を回復させ、株主の皆さまに収益を還元することが、今後の当社における喫緊かつ最大の課題でございます。

このような状況を踏まえ、第12期におきましては、以下の3つの戦略をもって、収支を改善するとともに、株主の皆さまにリターンを還元できるよう、まい進してまいります。

1. 営業投資有価証券の売却戦略

2. 投資先企業の育成戦略

3. 他社との提携戦略

※1 ベンチャーファンドの運用成績は、一般に倒産等の損失が先行し、投資回収が後半になるため、収益曲線が「J」型を描いて推移します。

※2 管理可能損益：安定収入（管理報酬等）－活動経費（販管費等）



当期中に対処すべき経営課題

(1) 営業投資有価証券の売却戦略

営業投資有価証券の売却につきましては、現下の市場環境が今後も続くことを想定いたしますと、投資先企業が上場した後の市場売却は機会が限られ、また実現したとしても高いリターンを実現する売却は望めません。したがって、その他の方法による売却を検討する必要があります。

当期におきましては、事業会社との関係を強化し、第三者への売却可能性を高めること、また、金融機関との連携により、M&Aでの売却可能性を追求すること等により、上場に依らない営業投資有価証券の売却手段を開発し、ファンドのリターンを獲得してまいります。

(2) 投資先企業の育成戦略

市場環境の好転を待ち、長期的視野で上場を目指すにせよ、早期の回収を目指してM&Aを実施するにせよ、営業投資有価証券を高価格で売却するには、投資先企業の企業価値が投資時点より幾段も向上している必要があります。

当期におきましては、投資先企業の企業価値向上を果たすべく、個別の投資先企業の状況に合わせた投資方針を設定し、育成支援を行ってまいります。特に、一定の基準により設定する重点投資先につきましては、社員の出向等を含め、当社の経営資源を集中的に投入することにより、企業価値向上の成果を現出させてまいります。

(3) 他社との提携戦略

当社は従来、本業であるベンチャー投資事業に注力する傍ら、その周辺業務において収益を獲得してまいりました。しかしながら、新規上場社数の激減等に現れる昨今の経営環境におきましては、投資事業のみから安定的収益を獲得することは困難であり、収益軸を補強し、ビジネスモデルの強化を図る必要があります。

当期におきましては、従来より推進してまいりました投資先企業以外へのコンサルティング業務やマッチング業務に加え、当社と経営及び投資に対する考え方を共有できるパートナーとの提携により、新たな収益源を獲得し、景況に左右されないビジネスモデルを構築することを目指します。

また、純資産の回復は当社にとりまして喫緊の課題でございますが、特に最近2期の大幅な赤字計上による毀損額を回復するには、収益力の回復のみをもってしては困難でございます。したがって、戦略的提携に付随して資本の提供を受けることにより、財務面での安定性を確保するとともに、連携をより強固にすることを目指します。

※ KTIC との提携について

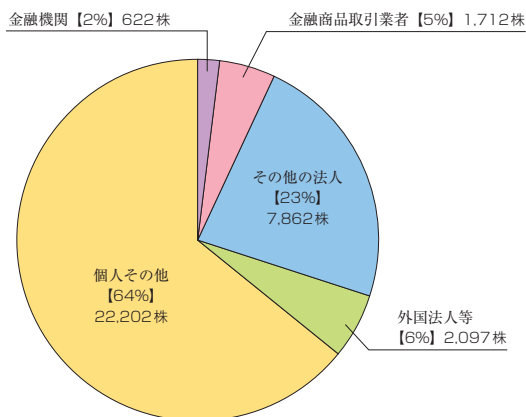
当社は、2009年5月21日開催の取締役会決議により、韓国を代表するベンチャーキャピタルであるKorea Technology Investment Corp. (KTIC) と、業務提携に係る協定書を締結いたしました。今後、当社がKTICの日本における活動支援を行うほか、両社の投資先間の連携、ベンチャーキャピタル業務からの多角化に成功しているKTICから当社に対するノウハウの提供等、両社の企業価値を高め合う取組みを推進してまいります。



株式データ

- ・発行可能株式総数 85,000 株
- ・発行済株式の総数 34,507 株
- ・株主数 1,445 人

所有者別株式分布表



大株主の状況

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
1 川分 陽二	2,847 株	8.2%
2 ユービーエス エージー ロンドン アカウント アイビービー セグリゲイテッド クライアント アカウント (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	1,802 株	5.2%
3 関西サービス株式会社	1,800 株	5.2%
4 藍澤証券株式会社	1,620 株	4.6%
5 藤原 洋	1,300 株	3.7%
6 有限会社ヤマカワ	1,250 株	3.6%
7 金田 泰明	1,229 株	3.5%
8 坂本 友群	869 株	2.5%
9 乾 敏行	825 株	2.3%
10 金光 富男	580 株	1.6%

注) 1. 出資比率は自己株式を控除して小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

2. 当社は、2009年3月31日現在、自己株式を12株保有しております。

会社の概要 (2009年3月31日現在)

- 商 号 フューチャーベンチャーキャピタル株式会社
- 設 立 1998年9月11日
- 資 本 金 19億1,193万円
- 従 業 員 数 47名
- 本 社 〒604-8152
京都府京都市中京区烏丸通錦小路上ル
手洗水町659番地 烏丸中央ビル8階
- 管 理 本 部 TEL:075-257-2511 FAX:075-211-1601
- 営業推進本部 TEL:075-257-6656 FAX:075-211-6965



- 東京支店 〒101-0021
東京都千代田区外神田六丁目14番9号
秋葉原 MF28 号館9階
TEL:03-5848-6310 FAX:03-3831-3536
- その他拠点

青森事務所	岩手事務所	山形事務所
金沢事務所	三重事務所	堺事務所
神戸事務所	愛媛事務所	

取締役及び監査役 (2009年6月25日現在)

代表取締役社長	川 分 陽 二	取 締 役	今 庄 啓 二
取 締 役	中 山 淳	取 締 役	小 川 淳
取 締 役	古尾谷博次	常 勤 監 査 役	大 橋 克 己
監 査 役	岡 部 陽 二	監 査 役	小 川 忠 久



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特 定 口 座 の 口 座 管 理 機 関	
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 TEL：0120-094-777（通話料無料）
上 場 証 券 取 引 所	大阪証券取引所 ヘラクレス市場
公 告 の 方 法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.fvc.co.jp/

（ご注意）

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきまして、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

フューチャーベンチャーキャピタル株式会社

〒604-8152 京都府京都市中京区烏丸通錦小路上ル
手洗水町659番地 烏丸中央ビル8階
TEL：075-257-2511 FAX：075-211-1601
[http:// www.fvc.co.jp/](http://www.fvc.co.jp/)